

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年6月6日現在

機関番号：32652

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520482

研究課題名（和文）日本語史基礎資料としての中世仏教者真蹟遺文の総合語彙索引の作成

研究課題名（英文）The Vocabulary Index of the Autograph by Japanese Buddhists in the Medieval Period as the Historical Studies of the Japanese Language

研究代表者

金子 彰（KANEKO AKIRA）

東京女子大学・現代教養学部・教授

研究者番号：20126402

研究成果の概要（和文）：中世新仏教者真蹟遺文の各文献の語彙索引の作成を行い、総合データベースを構築した。仏教者遺文は真蹟が伝来し、日本語史研究の第一等資料と位置づける。語彙索引作成文献は以下のとおりである。

親鸞の西方指南抄、一念多念文意、尊号真像銘文、唯信抄文意、三帖和讃、自筆書状。

聖覚の唯信抄。

明恵の華嚴唯心義。

法然の直筆起請文・書状、式子内親王宛書状。

恵信尼の自筆書状。

証空の自筆書状。

熊谷次郎直実の自筆起請文・誓願状。

覚如の口伝抄。

蓮如の自筆御文、自筆歎異抄、龍谷大学蔵歎異抄、大谷大学蔵歎異抄、自筆紀行文、和歌。

一遍の一遍上人語録和歌。

研究成果の概要（英文）：SUMMARY OF RESEARCH RESULTS

The aim of this study is to construct a general vocabulary database of the autograph by Japanese Buddhists in the medieval period.

The number of these autographs is so precious and abundant that the operation of the research has produced through utilizing the photo facsimile.

My own original devises have been conducted to keep the quality of the general index reliable and to aim to accomplish it.

These autographs are as follows,

Saint Shinran(親鸞);the Saiho-shinansho(西方指南抄),the Ichinen-tanen-monni(一念多念文意),the Songou-shinzou-meimon(尊号真像銘文),The Yuishinsho-monni(唯信抄文意),The Sanjyo-wasan(三帖和讃),the Original Letters(自筆書状),

Saint Seikaku(聖覚);the Yuishinsho(唯信抄),

Saint Myoe(明恵);the Kegon-yuisingi(華嚴唯心義),

Saint Hounen(法然);the Original Letters(自筆書状),

Saint Eshinni(恵信尼);the Original Letters(自筆書状),

Saint Syoukuu(証空);the Original Letters(自筆書状),

Saint Rensei(熊谷直実);the Original Letters(自筆書状),

Saint Kakunyo(覚如);the Kuden-syo(口伝抄),

Saint Rennyo(蓮如);the Original Letters(自筆書状),the Tanni-syo(歎異抄),the autographic writing dealing with his travel(自筆紀行文),the Tanka(和歌),

Saint Ippen(一遍);the Tanka(和歌).

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：日本語史（中世語）

科研費の分科・細目：言語学・日本語学

キーワード：日本語史、中世仏教者真蹟遺文、語彙総索引、親鸞、覚如、蓮如、法然、聖覚

1. 研究開始当初の背景

鎌倉時代から室町時代にかけては、日本語史上、古代語の崩壊と近代語の成立期という興味ある時期である。文学作品の語彙総索引は、徒然草、今昔物語、平家物語等多くが作成されている。しかも文学作品等では、後世の転写等の問題があり、日本語史の正確な記述説明には問題を残していた。真蹟が伝存する鎌倉新仏教の宗祖達の真蹟遺文群は、本人の真蹟が多量に伝存し、他者の転写を経ていない点で、この期の言語を解明する第一等資料として必要であったが、それらの文献の語彙総索引はほとんど作成されていなかった。従来、旧仏教者遺文の語彙総索引は、私も参加している高山寺典籍文書総合調査団による明恵上人関係(東京大学出版会)のものがあるが、新仏教の総索引は現状では作成されていなかった。学界の基礎資料として共有が待たれるものであった。私は今まで独自に、浄土真宗の親鸞、恵信尼、覚如、蓮如や浄土宗の法然、証空、聖覚、熊谷次郎直実、時宗の一遍等の各文献の索引を作成していた。それを総合してトータルに作成し直して総合化する必要を感じていたのである。

2. 研究の目的

多量の真蹟が伝存し、漢文体・仮名文体双方を持つ仏教者真蹟遺文を、日本語史研究の基礎資料として位置付けることは有効である。

仏教者の真蹟遺文は、従来の文学作品研究から得られる知見以上の言語上の新問題の解明の可能性を持つ。文学作品の多くが転写に問題を持つが、仏教者遺文は真蹟の伝存により、日本語史の第一等資料である。語彙総索引の作成によって、日本語史研究の、語彙研究以外にも表記、音韻、語法、表現法、位相研究等に貴重なデータを提供するものである。そのために、原本や複製本を底本として真蹟遺文を翻刻し、それに基づく語彙総索引を各文献毎に作成する。更にそれらを総合した総合語彙総索引のデータベースの構築を目指す。これによって古代語が崩壊し近代語が形成されてくる中世という時期の言語が従来以上にリアルに記述できるのである。

3. 研究の方法

以下の各文献毎に語彙総索引を作成した。各遺文の原本調査で入手した紙焼き写真、又は複製本を底本として、丁数、行取り等を行った。当該語彙を文節単位で採録して品詞分類を行った。

(1) 親鸞

西方指南抄 六帖 高田専修寺蔵、  
一念多念文意 一帖 東本願寺蔵、  
尊号真像銘文(広本)(略本) 二帖、高田専修寺蔵、福井県法雲寺蔵、  
唯信抄文意(正月十一日本)(正月廿七日本) 二帖、高田専修寺蔵、

三帖和讃(本文)(左注) 二帖、  
高田専修寺蔵、

自筆書状 高田専修寺蔵 一・二通

(2) 聖覚

唯信抄(ひらかな本)(西本願寺本)  
二帖、高田専修寺蔵、西本願寺蔵、

(3) 明恵

華巖唯心義、一帖、醍醐寺蔵、

(4) 法然

直筆起請文・書状、金戒光明寺蔵、  
清涼寺蔵、興善寺蔵、五通、

式子内親王宛書状、高田専修寺蔵、  
一通

(5) 恵信尼

自筆書状 西本願寺蔵、十通

(6) 証空

自筆書状 興善寺蔵、清涼寺蔵、二  
通

(7) 熊谷次郎直実

自筆起請文・誓願状、興善寺蔵、清  
涼寺蔵、二通

(8) 覚如

口伝抄 龍谷大学蔵、三帖

(9) 蓮如

自筆御文、各寺蔵 五一通

自筆歎異抄 西本願寺、二巻、

龍谷大学蔵歎異抄、一帖、

大谷大学蔵歎異抄、一帖

自筆紀行文、二通、

和歌 諸寺蔵、

(10) 一遍

一遍上人語録和歌 日本思想大系本、

(1)~(10)の語彙総索引を順次配列して総  
合語彙索引のデータベース化を図った。

#### 4. 研究成果

上記3の(1)~(10)の各文献語彙総索引は  
独自に作成したもので、文献毎に公刊すれば、  
中世語研究の基礎資料として活用範囲は広  
い。更に総合語彙索引から検索機能を使って、  
語彙、表記、文法その他の分野の新用例を得  
て活用も可能である。今後の展望は独自に期  
限内にまとめた作業によって、付訓、声点、

朱筆、左注、漢字の字体等に未だ点検を要す  
るものを残している。索引作成作業は以前か  
ら長期間に及んだ為、独自の作業とは言え、  
書式に統一を欠くものも存している。又、翻  
刻本文の提示、中世仏教者とはいえ、鎌倉新  
仏教者が中心で、しかも日蓮等の膨大な遺文  
の語彙索引は未だ十分の手が入っていない。  
今後、作業時間を得て正確な語彙総索引に仕  
上げることを期したい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に  
は下線)

[雑誌論文](計7件)

金子彰「鎌倉時代仏教者夫妻親鸞・恵信  
尼文書の表記と用語について」、新潟県  
ことばの会『ことばとくらし』第23号、  
2011年、94~98頁、査読無

金子彰『世阿弥自筆能本『江口』語彙総  
索引稿』、新潟県ことばの会『ことばとく  
らし』第23号、2011年、50~7  
9頁、査読無

金子彰「恵信尼の用語」、『大谷大学真宗総  
合研究所研究紀要』第28号、2011  
年、209~242頁、査読無

金子彰「鎌倉時代仏教者夫妻親鸞・恵信尼  
の用語-言語の地域差について」、『言語変  
化の分析と理論』、おうふう、2011年、  
214~234頁、査読無

金子彰「世阿弥自筆能本『松浦之能』語彙  
総索引稿」、『東京女子大学日本文学』第  
107号、2011年、141~171  
頁、査読無

金子彰「世阿弥自筆能本『難波梅』語彙総  
索引稿」、『東京女子大学日本文学』第1  
06号、2010年、205~233頁、  
査読無

金子彰「世阿弥自筆 金春禅竹宛書状  
語彙総索引稿」、新潟県ことばの会『こと  
ばとくらし』第21巻、2009年、3  
3~44頁、査読無

〔学会発表〕(計8件)

金子彰「京の手紙と越後の手紙 - 為房妻と恵信尼の言語 -」、新潟県方言研究会、2012年3月25日、長岡市アトリウム会館

金子彰「恵信尼文書の言語の地域性 - 接続助詞『とん・どん』続貂 -」、新潟県ことばの会、2011年11月23日、新潟大学

金子彰「中世仮名書き注釈書の注釈の方法 - 親鸞の注釈書の形式と字訓の性格 -」、東京女子大学日本語史研究会、2011年9月4日、東京女子大学

金子彰「恵信尼文書の言語の地域性」、新潟県方言研究会、2011年8月28日、長岡市アトリウム会館

金子彰「鎌倉時代仏教者夫妻の親鸞・恵信尼文書の表記と用語について」、新潟県ことばの会創立40周年記念大会、2010年11月23日、新潟大学

金子彰「中世仮名文書の仮名遣いについて - 為房妻・恵信尼文書を中心として -」、東京女子大学日本語史研究会、2010年9月26日、東京女子大学

金子彰「鎌倉仏教者親鸞の注釈方法 - その形式と字訓の性格 -」、大谷大学真宗学研究所「教行信証(坂東本)の総合研究のための基盤構築」公開研究会、2010年1月8日、大谷大学真宗学研究所

金子彰「中世仮名資料の漢文訓読語の受容」、東京女子大学日本語史研究会、2009年8月2日、東京女子大学

〔図書〕(計1件)

築島裕他編、東京大学出版会、『古語大鑑』第一巻 あ～お(項目執筆)、2011年、848頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

金子 彰 (KANEKO AKIRA)  
東京女子大学・現代教養学部・教授  
研究者番号: 20126402

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし